

第七回

博多献上道中

平成25年10月19日(土)

17時 川端商店街

18時30分 JR博多駅前広場

↓ 御供所地区

※雨天の場合

18時 川端商店街

博多をぐらりと、秋めぐり。



AKIHAKU
2013

主催：博多献上道中実行委員会

共催：博多織工業組合・西日本新聞社・TNCテレビ西日本・日本イベントプロデュース協会九州本部

後援：福岡市・博多まちづくり推進協議会・福岡商工会議所・NHK福岡放送局

協賛：JR九州

協力：聖福寺・東長寺・承天寺・上川端商店街振興組合・川端中央商店街振興組合・杵弥会

福岡美容生活衛生同業組合・福岡美容専門学校・もち吉・石村萬盛堂・いろは和装学院

秀西都会・みやこんじょ力俤組合

photo Hiromasa Otsuka

博多織と博多献上道中

博多献上道中コース

鎌倉時代、1235年(嘉禎元年)33歳の満田弥三右衛門は、博多綱首(はかたごうしゅ)謝太郎国明の船で、34歳の円爾(博多・承天寺の開山、勅諭・聖一国師)と共に中国・宋の明州へ向け博多の津を出港します。宋に六年間滞在し、織物・朱・箔・そうめん・じゃこう丸の五つの製法を修得し、1241年(仁治2年)弥三右衛門は、円爾と博多の津に帰ります。博多に戻った弥三右衛門は、これらの製法を博多の人々に伝えましたが、その中の織の技法だけは家伝とし、広東織と称して独特の技術を加えながら代々伝えていきました。さらにその約250年後、弥三右衛門の子孫、彦三郎が中国・広東へ渡り、織物の技法を研究して帰ります。その後、竹若藤兵衛に技法を伝え、共に改良工夫して、琥珀織のように地質厚く、浮線紋もあり柳条もあるという織物を作り出しました。そしてその織物が作られたこの土地、博多の地名をとって、「覇家台織」(はかたおり)すなわち博多織と名づけられたと伝えられています。

1600年(慶長五年)、黒田長政は筑前を領有するようになってからは、徳川幕府への献上品として博多織を選び、毎年三月に帯地十筋と生絹三疋を献上します。この品々を総称して定格献上と名づけられたことから、「博多献上」帯が誕生しました。その紋様は、真言宗の法器、独鈷(どっこ)と華皿(はなざら)を図案化しており、以来変わらず今日に伝えられています。



独鈷



華皿

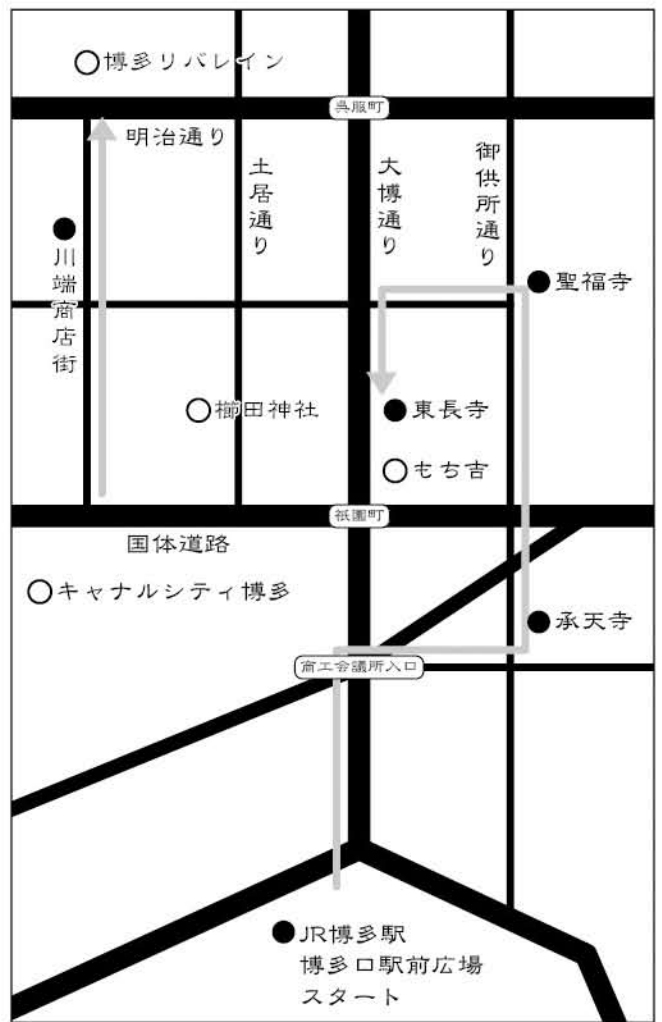


両子持縞(孝行縞)



中子持縞

博多織は、満田弥三右衛門の伝承と円爾(勅諭・聖一国師)の教え、黒田藩の保護政策により、「博多献上」というスーパーブランドを確立しておりますが、近年このような歴史物語を知る人も少なくなりつつあります。「博多献上道中」が行われることにより、世界に誇る伝統工芸品「博多織」を再認識してもらい「キモノの似合う博多」の秋の恒例行事の祭りになることを願っております。



※コースは当日の状況により変更する場合があります。

第7回博多献上道中概要

人力車に乗った博多券番を先頭に、黒留袖に博多献上帯姿の女性が、前後に同じく博多献上帯を締めた提灯持ち、旗持ちの男性を従えて、灯明で彩られた博多の町を情緒たっぷり厳粛に歩きます。道中では三味線と笛の演奏も披露されます。

17時より川端商店街を歩き、その後場所を移動し18時30分よりJR博多駅前広場をスタートし、御供所町へ向かい、博多織の開祖である満田弥三右衛門ゆかりの寺、承天寺、聖福寺、東長寺を参ります。(雨天の場合は18時より川端商店街のみの道中になります。)

博多献上道中参加応募要項

- ◎応募期間 平成25年9月26日～平成25年10月8日
- ◎募集人数 20名(先着順)※定員になり次第締切
- ◎参加費 3,000円(博多織グッズなど記念品プレゼント)



- ◎応募条件
 - 和装に興味のある女性
 - 着物は留袖、黒紋付、もしくは黒っぽい着物(付け下げなど)
 - 帯は博多献上帯
 - ※着物の着方は伝統ののっとり清潔感があり、格式のある装いとす。
- ◎オプション(以下、必要な方は別途お申込ください。)
 - かつら・メイク・着付け…12,000円(10名限定)
 - 着物レンタル…5,000円
 - 帯レンタル…2,000円
 - ※かつらや着物は既存のもので、サイズが合わない場合がございます。

◎応募方法 住所・氏名・連絡先(必要なオプション)を明記の上、メールまたはFAXでお申込みください。詳しくは博多献上道中HPをご覧ください。

☎ 092-531-9136 ✉ hakatakenjo@gmail.com
 博多献上道中ホームページ http://hakatakenjou.wix.com/hakata